全国統一シェービング美肌術共通テスト

S.H.A.V.E-1

Shaving beauty：シェービングビューティー
High career：ハイキャリア
Autonomously：オトノモシリー
Value of：バリューオブ
Education：エデュケーション

Admission Policy

【全 100 問テスト】

AMAZING
SHAVIST

AMAZING SHAVIST

変化を突きつけられた今、
お客様と厚みある関係性を築くためにも、
豊かな知性を身に纏う。

▶書籍や映画でも話題となった『ビリギャル』その本人、小林さやかさんは現在、講演活動を続けています。その中で決まって、「どうせビリギャルってもともと頭がよかったんでしょ」という反応が多いといいます。当初は、なんでわかってくれないのだろうと思っていたそうですが、前のめりに聴講する人たちの聞きたいこと、知りたいことと向き合うにつれ、ただ単に「誤解です」と上辺だけを取り繕って話すのではなく、もっとロジカル(論理的)に説く必要性がある、そのことに気付いたと語ります。本人の経験と論理を掛け合わせて戦略的に自分の言葉を持てば、重みも増して大きな共感を生みます。まさに「経験知」がなせる業です。

▶これをかおそりビジネスに置き換えると例えば、「シェービングって女性の素肌にイイんです」といきなり言われても、世間の女子が知りたいのは「なにがどういいのか」ロジカルなアンサーですよね。私の素肌にとって、私の生活にとって「なにがどうよくなるの」個々、具体的な引き出しの多さが決め手となります。もっと言うと、「剃ったら濃くなるというのは誤解です」というのは容易いですが、「なんでそうなの」経験と論理を掛け合わせたベストアンサーが女子受けするでしょう。サロンの現場実践が長いと振り返りや整理する「反芻思考」が一層求められ、それはお客様へのアドバイスにつながり、専任者への信頼となるのです。これまでに習得してきた叡智を振り返って、また新たに現れた学びを血肉とする。女子シェービングの時代的な進化に伴い、シェービング専任者の深化を目指し、社会に価値をもたらす令和型キャリアの真価を問う。

▶そして、ぜひご理解いただきたいのが、「SHAEV-1」に参加する一人ひとりの意味です。これを受けたからといって何が得られるのかというと、それは「気付き」です。物質的に何か差し上げるわけではありません。経験知の出題 100 問ですから、それは 100 通りの気付きとなり、100 回分を反復します。最終的には 100 点満点の採点を付けますが、各自 1 問ずつどう向き合うのか、その出会い頭の思考プロセスに比重を置くからこそ学び鍛えられるのです。結果よりも過程を重視するテストなんて滅多にありません。でも、それでいいと思っています。

▶【SHAVE】の頭文字を分解して再構成すると、ちょうどいい語呂合わせです。その中に、一つだけ聞きなれない単語があります。「Autonomously：オトノモシリー」これは「自律的に」という意味です。自ら律する学びの姿勢です。この先々、どのような仕事・業種にも新しい知の創造という観点が不可欠となります。まさに令和とは、各人個々が豊かに突き抜ける時代です。

▶ですから、質の高いキャリア(High career)を形成するには、価値ある(Value)教養(Education)で勝負。もう誰かに教わってばかりではなく、生き様を最大限活用した「経験知」を積み上げ揺るぎ無いものにしましょう。

▶「SHAVE-1」と命名するのは女子シェービングに志ある者たちへの極致としたいからです。

さあ、自然体で臨みましょう。

AMAZING SHAVIST

普段、サロンで実践される事象を
コトバで言い表すと
どういう語彙がふさわしいのか、考える力を問う。

▶シェービングを施す専任者。それは、専業で技術サービスを提供できる唯一の存在と言い換えられます。世界広しとも、刃物を駆使して美を謳い、人様の素肌で叶える職人なんて他にいません。日本の理容師だけです。しかしこれまで、理容師は自らの能力を過小評価してきました。それはそのまま社会的な評価として転写され、ゆえに認知も広がらず、未だ偏見の眼差しが横行します。

▶昨今の「100 円脱毛」に見られる値引き戦略の対抗策について、各位の見解を求めたところ、シェービングサービスは同調すべきではないという考えが大方を占めました。サロン現場は、誰一人として安売りなんてしたくない意向です。ですから‥

シェービングで堂々と料金をいただきましょう。
シェービングの価値を価格に反映させましょう。

▶あえて申し上げると、依然業界全体には、世間に遠慮して安くやろうとする風潮があります。だからなめられるのです。これはマーケティング以前の覚悟の問題です。美剃りを提唱するシェイヴィストには唯一性と卓越性に秀で、技術的にも一日の長があります。だからこそ、時代に見合うシェービングサービスをより柔軟に、より深く理解することが肝要です。

▶様々な立場に就く皆様が、多様な意見を交わすことでおぼろげながら知恵の種粒が生まれます。その種粒に発展性をもたらせると、こうしたいという意欲の輪郭がハッキリします。自己を再認識し、自律的に道を切り拓くことは、一方で他者・他事を受容する懐の深さにも帰結します。一朝一夕には会得できなくても、そのような場に身を置き、意義ある進化を果たしましょう。

▶キャリアを重ねたからこそ一手先を見据え、自らの軸足は確かなものにしたい。学び、発し、気付き、また新たな認識へと紡いでいく。淀まないよう、途絶えないよう、そんな知の循環を創りたいと考えています。「SHAVE-1」が目指す地平とは、まさに気付きと反復です。

▶新たに設ける科目は、すべての設問文が 1 箇所まちがっています。その「誤句」を抜き出して「正答を記述する」難易度の高いもの。記述ですから「解」はひとつとは限りません。答え方によっては何通りも創出できます。これはかなりのストレスとなるでしょう。ですが、必ず血肉となる研鑽です。普段、サロンで実践される事象をコトバで言い表すとどういう語彙がふさわしいのか、考える力を問います。従来の詰め込み偏重のお勉強では意味がありません。覚えているつもり、知っているつもり、そんな「つもり意識」をぶち壊すことで実学へとつなぎます。

シェービングをど真ん中に知性開放いただきたい。
その価値をゆるぎないものに、技芸と教養を極める。

▶今までの常識に捉われることなく、業界の習慣に縛られることなく、誰にも遠慮することなく、現下の難局を乗り切るしなやかで賢い叡智を蓄えましょう。

AMAZING SHAVIST

目隠しされると、
とたんにわからなくなる。
文脈をたどって考えを巡らせ、導き出す。

▶誤った単語「誤句」がそれぞれ 1 箇所、それに置き換わる正しい単語「正答」は何か?　間違いを正す「SHAVE-1：科目 B」誤句記述式の全 100 問。相当、苦戦を強いられるかと推察します。選択式と勝手が違い、書いてテストする習慣から遠ざかっている状況下では、左脳が痛くなってもおかしくありません。正答を知った上で、改めてすべての設問を振り返ってみてください。よく読み取ればおのずと不自然な箇所は判明して、より腑に落ちるでしょう。

▶文章全体から間違った箇所を抜き出し、正答を記述するポイントは、誤ったところだけを見つけ出そうとするのではなく、文章が意図する全体像を捉え、前後の文脈を理解することです。回りくどく考えたり、例外や言葉の粗を探したりしても先に進めません。おかしな言い回しとなる箇所を素直に抜き出し、それに代わる「語彙」を考えるのです。

▶正答はすべて「単語」となります。文章自体を作り変えることではありません。さらに、答え方によっては、差し替える単語は一つとは限りません。「正解は何か」という流れに沿って、順立てて解く答えは、実はそう難しいものではありません。そこだけ覚えればいいので簡単です。ところが、本科目のように「間違いは何か」となると、流れに逆行するため難しくなる。文脈をたどって考えを巡らせなくては導き出せないからです。

▶設問文には、サロン現場で普段からそのようにしていることを選りすぐりました。ですか、答えを聞くと「なんだそんなことか」となるものでも、言葉が差し替わり、隠されると大変悩みます。並べられた語句を拾い上げ、あてはめて答えるのとは異なり、いざ、書いて答えるとなるとそう簡単にはいきません。

どうしてなのか‥
一般論としてですが、

▶これは、長らくそれがあたり前とされた知識の詰め込みによる学習スタイルの弊害です。正解だけを覚えようとするあまり、そこだけ切り取れば OK となってしまい、論理的な思考力が育たない。正解が載っている情報は貪欲にむさぼるけど、インプットしたらそれっきり。アウトプットの習慣が無い。だから自分の言葉が思いつかず、書けないのです。昨今の教育改革や大学入試で指摘するのはこの点です。ですから、自分自身の思考回路で咀嚼できるよう、脳内をより柔軟にさせましょう。そして、本質を見極めましょう。

毎回悩み悩み、思い出し、資料を見返して勉強します。家庭のことなどやりながら、ストレス溜めながら、なんでまたやってしまったのだろう？‥って思いますが、やらないわけにはいかないのです。なぜなら、やればまた考え方が深くなることを知っているから。それを怠っていては前に進めないから、気力が続くまで頑張ります。

受講されたシェイヴィストの感想より

AMAZING
SHAVIST